

第217号
発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回15日
定価1部5円

8月1日現在
人口 7,337 (+10)
男 3,615 (0)
女 3,722 (+10)
世帯数 1,684 (0)

な か さ と

カッコ内は前月との比較



(写真上)
つゆが明けた暑い日に保育所の運動会があり
つゆが明けた暑い日に保育所の運動会があり
つゆが明けた暑い日に保育所の運動会があり
つゆが明けた暑い日に保育所の運動会があり
つゆが明けた暑い日に保育所の運動会があり

農山村開発 総合センター着工

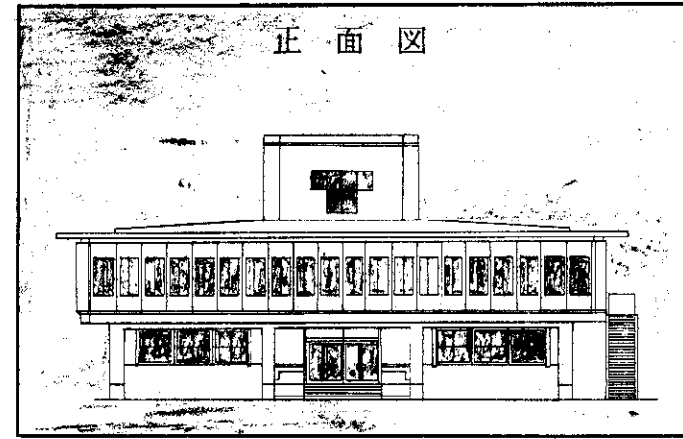
来春の完成めざして

村民の待望久しかった総合センターは、七月十日に上棟式を終え、七月十八日に着工されました。

農山村開発総合センターは設計は西田勇設計事務所、工事は長岡の渡辺建設に九十二万四千五百円で落札されました。工期は七月十六日から来年一月の十三日まで、場所は、上山の中里村児童遊園地下の田原の中で、駅通りから国道を越えてまっすぐいったところだ。

内容は、敷地面積五二二二平方メートルで、一階は、事務室・資料室・図書室・調理実習室・研修室等二階は小会議室と面談室となっており、一階から二階までの総床面積が八四一・三七平方メートル。来春から一般の皆様に、使っていていただけるものと思えます。

(下)は農山村開発総合センター完成想像図



正面図

九月一日 第二十回郡市社会教育大会 川西町総合センターで

来る九月一日(日)、川西町総合センターにおいて第二十回郡市社会教育大会が開催されます。

今年大会の主題は、「新しい地域づくりと社会教育の役割」と設定され、現在急務な農村の発展に伴い、地域の連帯感や人間関係の温かさは失われつつあります。こうした中で、真の住みよい豊かな地域をつくるために、社会教育は具体的に

交わった御夫人方のつきめ話題が一際聞き耳を立てさせる。勿論同期生は素より旧知の面面相觑をたたく手を取り合って無事を喜び合っている毎年の行事涙ぐみ

心配ごと相談所開設のお知らせ

下記より心配ごと相談所が開設されます。時間は午後一時から四時まで、会場は中里村公民館です。

月日	担当者
八月二十三日	上原サトミ
八月三十日	広田 定一
九月六日	山本 莊平
九月十三日	山田 範茂
九月二十日	南雲 勝治
九月二十七日	斎藤 隆一

八月の予報
太平洋の高気圧が発達してかなり暑い期間もありますが、月初めと月末は前線の影響でずつと日が多いでしょう。また北陸の高気圧の勢力も強いので天気はやや不安定で局地的な大雨のおそれもあります。

九月の予報
太平洋の高気圧におおわれて暑くなる期間もありますが、月初めと下旬の天気はぐずつき涼しくなるでしょう。

平均気温は並み、降水量は並み、日照は並みの見込みです。

鈴 物量時代と小欲知足

斉藤 大 馨

現代は同僚とか地位とか、そのバックがものをいう時代である。肩書や地位がものをいうのは、今にはじまったことではない。昔も今もかわらぬが、現代ほど千鈞の重みをもつ時代も珍しい。

長い間、或会社を定年で退職した友人がいる。現職中は多方面に渉って顔が利いて、要人たちの電話口には呼び出していた。ところが退職すると、鼻にも引かれてくれない。会に出かけても門前払いである。

こんなことは新聞記者に限らずあらゆる職業人にいえる。地位の高い役人が現職中は大会社の幹部を役所へ呼びつけていたけれども退職すると、世の中の中の風を冷たさを、いやというほど味わわれる。

当然のことであるが、はたあたらぬゼンシヤの肩書と、肩書きとの利害で結ばれていたのだ。そこには利害計算を越えた温い人間と人間との心のふれ合いがなかった。勢いカネの切れ目が縁の切れ目、ポストを去れば路傍の石になる。相手を冷たく非難するのは朝飯前だし、自分非難する自分はどうか、と自分の問題には返さずしてこ

全国同窓会と北陸の旅

藤田 五 郎

工華会という皆憶存知の方が多い会である。元は旧陸軍の技術幹部養成学校の総合同窓会の名称である。

全国に約六千名の同窓生が北は北海道から南は台湾まで散在している。毎年初夏の頃に全国同窓会が有名観光地で行われる事になっている。本年は六月十二日から二十四日迄三日間片山津温泉で盛大に行われ、出席者は同窓者をあわせて約千名が温泉会場であつた片山津温泉会館が満員となる盛況であつた。

技術関係の学校出身である為戦

の教えは二百六十度角をもちつてゐる。時代に流されるのではなく、時代に応じた教えを引き出さなければならぬ。

物量に自己を失うことなく物量の主人公になって、自由自在につかうだけの力量をもとう。それにはまず自分が一度死ぬことだ。

考えてみると、あすのいのちや今日のいのちを保障されているものは一人もいない。

カネ、カネ、カネ、とカネを目的にして追いつめるが、死ぬときは何ひとつもたつてはゆけない。

善悪の業だけで、カネはおろか

私は東京開成中学から南雲氏は長岡工業学校から入学、出身学校は違つていたが終戦当時短大生として在学中であつたこととあり同窓という絆で長い間南雲氏との温かい心の交流があつた。東京電力勤務で前途有為の氏も病氣には勝てず惜しいことをしたものである。悔まれてならない。

六月十二日妻同伴で早朝出発、加賀温泉駅下車、片山津温泉着、妻は夕食まで自由行動、私は全国同窓会に出席、理事会を終了後懇親会、往年のつわものも皆社会人になり切つて頗るなごやかである。武張つた話も出て来ない。時間のたつのも忘れ私自身も卒業の暴飲の禁を破る有様、あちこち旧知の幹部がたむろして往時を追憶談に花を咲かす、誠に楽しきかなであ

交わった御夫人方のつきめ話題が一際聞き耳を立てさせる。勿論同期生は素より旧知の面面相觑をたたく手を取り合って無事を喜び合っている毎年の行事涙ぐみ

人生往来

◎産 氏名 父の名 部落
星野 和雄 文雄 田沢
中島 友美 正人 本屋敷
渡辺留美子 勇蔵 高道山
太田 正人 弘 芋沢
江村 由佳 春夫 山崎
猪股ゆかり 和幸 新屋敷
小野塚子 亮一 田中
◎高砂
◎新 山田 山田ハツ子(三)東京都
◎昇天
新 山田 山田ハツ子(三)東京都

安宅の関富樓の陶像

えるとともに、万感交々胸に迫るものがあつた。レクリエーションとして勇壮なる温泉太鼓に、つき、プロによる北陸の民謡があり、万三三唱歌会、同期生毎にホテルに宿泊、上、下級生でお互に面識のある数組混合で懇親会に移る。誠に盛大である。婦人連は恐れをなしてか早く退散、夜の更けるのも忘れて懐旧談に耽ける。不思議とでも表現すべきか、手柄話や自慢話は全然ない。先輩後輩のけじめはあるが、同期生と後輩は「きさま」と「おれ」である。先輩にはやはり頭が上がりたが然し恐くはない。所謂民主化したからに相違ない。つまらぬ話に、も次々と花が咲く。真面目な奴が消燈ラッパを大声でなる。之がいみじくも効を奏し夫々部屋へ引きあげる。以下次号

